

職員リレーエッセイ

最近の涙腺事情

総務 事務員 大須賀 康宏

皆さんは、最近涙を流されたことはありますか。

子供の頃は、痛くて泣き、怖くて泣き、悲しくて泣き、色々な場面で涙を流したものでした。思春期になると、人前で泣くのが何となく照れくさくなり、「こんな事で泣いてたまるか」と不必要に「涙」に抵抗したものです。大人になると、少々の事には動じなくなったのか、感情が鈍くなったのか、涙を流す事はめっきり減ってしまいました。

数年前に、「ALWAYS 三丁目の夕日」を見たとき、自分の体の何処にこんなに涙が有ったのかと思う程、涙を流したのを覚えています。それがきっかけか、単に年をとったからかは別として、最近はやたら涙を流す事が多くなりました。

1年半ほど前に、3歳年上の姉が他界しました。姉は59歳ですい臓がんを発症し、2年間のがんと闘いの末、旅立って行きました。手術後は、放射線治療、抗がん剤治療を行いました。抗がん剤治療は、人によって差が有るものの、一応に身体的に大変な負担をかける様です。姉も、抗がん剤治療中は半分廃人の様になり、何も出来ない苦しい日々を送っていました。1年間抗がん剤治療を頑張りましたが、肝心の腫瘍マーカーの値が下がらず、ついにその治療をやめてしまいました。一時的なものです。抗がん剤をやめると元気になります。治療の苦しみから解放され、残された人生を悟ったかのように、色々なことを全力で取り組み出しました。緑区事業所の看板(ニコ鳴、どんたく)は姉の作品ですが、そのトールペイントの教室も再開し、家族旅行にも出かけていました。

救急車で再入院した時は既に手遅れで、藤田の「ケア緩和病棟」で2カ月ほど過ごしました。その病棟は喫煙以外は飲酒もOK、面会時間の制限もなく本人の希望でしたが、1階でエレベーターに乗り、6階(ケア緩和病棟のみ)のボタンを押すのが本当に辛く、ついつい涙ぐんでしまいました。

辛い涙は無ければ無い方が良いに決まっています。

偶然見つけたテレビ番組ですが、土曜日のお昼に「ライオンのグータッチ」という番組が有ります。MCが佐藤隆太&博多大吉&乃木坂46 西野七瀬で、結果の出ない子供たちに、有名なエキスパートが徹底的にサポートし、夢を追いかける全ての子供たちの成長を見守る応援ドキュメントバラエティです。

毎週録画をして、欠かさずに見ています。登場する子供たちはエリートではなく、公式戦で1勝も出来ない柔道女子や、1勝どころか1点が取れないサッカーチームなどなど、とって身近な存在の子供たちです。そんな子供たちが必死に頑張る姿に毎回感動して、涙があふれます。

感動して流す涙は、何度経験しても良い物です。

ふと振り返ると、最近他人を見て涙する事が有っても、自分の事で感動したり、喜びを感じて涙した記憶がほとんどなくなってしまいました。

私の涙腺はますますゆるくなって来ましたが、たまには自分の事で自分の涙腺をゆるくさせる様な頑張りを、グータッチの子供たちを見習ってやりたいものですね。

次はデイサービスの松村さんにつなぎます

低料第三種郵便物許可

平成 年 月 日発行（増刊）

A J Uニコニコハウス通信（第 号）（ ）